

本稿は、相撲趣味の会誌「相撲趣味」に掲載されたもので、内容の無断転載を禁じます。書誌情報の詳細は文末を参照して下さい。転載等の希望は相撲趣味の会に問い合わせして下さい。

阿波力士 三ツノ海茂八の軌跡をたどる

笠原 二郎

一、はじめに

筆者は徳島に暮らしてちょうど十年になるが、平成二十九年三月から六月にかけて、職場である徳島大学にて、地域社会貢献の一環として「阿波の相撲史展」を主催した。以来、阿波徳島出身力士には興味を持って情報収集しているところであるが、嘉永年間には江戸の大相撲幕下にいた三ツノ海茂八の来歴等を最近調査する機会があり、本稿にて紹介させて頂く次第である。

嘉永五年出版の「相撲今人金剛傳」に依れば、三ツノ海茂八は阿州名東郡徳嶋の産とあり、徳島藩で生まれ育った力士と考えられ、大坂では竹縄門人、江戸では玉垣門人であったようだ(図一)。また後述するとおり、現段階で接した資料の中でこの力士らしき名が見られる最も古いものは、天保十二年頃の相撲番付であることから、生まれは文政年間あたりではないかと推察される。筆者が調査した資料に依れば、少なくとも天保十二年から安政二年までの資料に依れば、少なくとも天保十二年から活躍したことが窺える。同時期に活躍した阿波力士には、徳島藩抱えに幕下には勢見崎米蔵、江島山玉吉、絵島瀧幕内におり、幕下には勢見崎米蔵、江島山玉吉、絵島瀧市五郎らがあった。また大坂相撲では小鳴戸力蔵、轟永吉、岩嵐和之助らが中堅の阿波力士として知られている。しかし、これまで三ツノ海は徳島の相撲史や郷土史研究において取り上げられた様子がない。後有名力士達を相手に互角以上の実力を発揮していたことは特筆に値する。確認された三ツノ海は番付と地位(表一)、および江戸の大相撲本場所における勝負星取記録(表二)を紹介し、その相撲人生を概観したい。

二、天保（弘化）嘉永初期

徳島県立文書館が所蔵する阿波相撲番付（岩村文書）のうち、少なくとも天保二年、九年、および十年に徳島で興行された相撲の番付には、三ツノ海らしき名は見当たらない。天保十二年五月に大岡別宮浦で開かれた阿波相撲番付には、東西の三段目にそれぞれ「三ツケはま」と読める力士がいる。東二十七枚目の力士は下の名が「和ぞう」、西二十五枚目は「茂八」と読めることから、西方の力士が後の三ツノ海茂八であろう。実際「相撲今人金剛傳」の三ツノ海の項には、「初め三ツケ濱」という記述があり（図一）、デビュー当時は三ツケ濱と名乗っていたようである（なお、佐古諏訪神社で開かれた大角力興行番付の西十年九月に佐古諏訪神社で開かれた大角力興行番付の西四段目二十八枚目に名を認め、以降の阿波相撲番付や、天保十一年以降の大坂相撲番付に名があり、後に阿波相撲頭取になる三ツケ濱和蔵であると推察される）。それら時期の大坂番付を縦覧すると、天保十二年七月の大坂相撲番付には、西方四段目百二十枚目に大坂頭書「三ツケはま茂八」と読める名がある。なお「三ツケはま茂八」の四名は天保十二年限りで、翌天保十三年以降は「三ツノ海茂八」を名乗っている。さて、大坂相撲における三ツノ海の名所乗は竹縄部屋であったが、小池謙一氏の「年寄名跡の代々・竹縄代々の巻（中）」に依れば、天保十二年七月に源氏山源蔵が大坂頭取の竹縄を継承して、四代目・竹縄源右衛門を名乗った。源氏山源蔵は現在の徳島県名西郡石井町高川原出身の阿波力士であり、主に大坂で活躍して江戸の幕下も二場所務めた。このように阿波相撲の縁があつて、三ツノ海が大坂竹縄の門人になつたことは想像に難くない。天保十三年、十四年の大坂では三段目十五年に二段目に位置すると、以降の三年間は二目一桁まで順調に地位を上げる。嘉永元年に奈良の南城戸で興行された中相撲番付では、東の関・姫路頭書の甲山光之助に對して西の大関・この番付の西前頭筆頭に位置する阿波の先輩力士小嶋戸力蔵より上位であつた。嘉永三年七月の先坂本場所は、従来ありし江戸の大相撲力士が誰も来ない場所であり、

三、嘉永期、江戸大相撲を中心にして、  
 と考へられる。いて、強豪力士と、し、て、知、ら、れ、る、よ、う、に、な、つ、た、  
 初、期、に、は、三、名、が、認、め、ら、れ、る、と、し、て、中、心、に、活、躍、し、な、つ、た、  
 は、三、ツ、ノ、海、に、挙、げ、た、番、付、の、目、に、位、置、し、て、の、稽、古、大、坂、に、関、し、て、  
 三、表、二、三、ノ、海、の、三、名、が、認、め、ら、れ、る、と、し、て、の、稽、古、大、坂、に、関、し、て、  
 と、勝、負、星、取、を、示、した、の、江、戸、大、相、撲、を、中、心、に、  
 外、な、が、ら、玉、垣、所、一、お、そ、ら、く、下、格、付、け、出、し、た、  
 三、本、場、所、の、江、戸、本、場、所、一、お、そ、ら、く、下、格、付、け、出、し、た、  
 は、東、幕、下、に、位、置、し、雨、天、好、成、績、を、興、行、が、翌、日、に、打、  
 ち、切、ら、れ、る、中、に、勝、戦、全、勝、と、好、成、績、を、興、行、が、翌、日、に、打、  
 場、所、も、続、け、る、勝、越、す、の、嘉、永、五、年、十、一、月、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 二、十、八、枚、目、に、名、が、あ、る、の、勝、負、に、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 名、が、な、い、場、所、の、勝、負、に、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 績、を、残、し、て、い、る、ま、た、天、保、二、年、以、降、は、七、年、一、月、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 海、大、坂、本、場、所、の、江、戸、本、場、所、一、お、そ、ら、く、下、格、付、け、出、し、た、  
 東、前、頭、七、十、五、枚、目、に、い、る、筆、者、は、永、六、年、以、降、は、七、年、一、月、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 戸、東、五、段、目、や、四、段、目、に、い、る、同、名、の、力、士、が、朝、鶴、茂、八、年、以、降、の、江、  
 た、東、三、段、目、の、海、四、段、目、に、い、る、同、名、の、力、士、が、朝、鶴、茂、八、年、以、降、の、江、  
 外、に、な、つ、た、理、由、は、わ、か、ら、な、い、が、永、六、年、二、月、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 縹、の、後、に、復、帰、し、た、も、し、れ、ば、何、れ、に、せ、よ、不、幸、か、不、祥、事、  
 嘉、永、七、年、二、月、は、一、番、所、は、東、幕、下、格、付、け、出、し、た、  
 を、更、新、し、五、月、は、東、幕、下、七、十、五、枚、目、に、い、る、筆、者、は、永、六、年、以、降、は、七、年、一、月、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 い、好、成、績、を、収、め、て、い、る、な、お、嘉、永、七、年、二、月、は、一、番、所、は、東、幕、下、  
 の、四、枚、目、に、江、戸、頭、書、な、ら、阿、波、の、大、勇、岩、之、助、が、デ、ビ、ユ、  
 し、て、お、り、後、に、幕、内、力、士、鶴、ヶ、滝、岩、之、助、に、な、つ、た、。三、  
 ノ、海、の、名、は、七、年、五、月、の、大、坂、番、付、に、お、り、お、そ、ら、く、  
 た、海、濱、五、郎、の、力、士、が、前、頭、上、位、に、お、り、お、そ、ら、く、  
 三、名、之、海、濱、五、郎、の、力、士、が、前、頭、上、位、に、お、り、お、そ、ら、く、  
 改、三、ツ、ノ、海、は、最、終、的、に、江、戸、の、大、相、撲、土、俵、を、三、年、半、七、



謝辞

本稿をまとめるにあたり、剛田明治氏、土屋喜敬氏、山下和也氏に調査ご協力頂きました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

参考文献

- 相撲今人金剛傳（嘉永五年刊）
- 相撲起頭十輯（明治四年刊、三河屋治右衛門）
- 相撲起頭増補（明治十九年刊、山本義一、新興社）
- 日本相撲史 増補（昭和三十一年刊、酒井忠正、ベースボール・マガジン社）
- 大相撲人物大事典（平成十三年刊、「相撲」編集部、ベースボール・マガジン社）
- 年寄名跡の代々（一五）「竹縄代々の巻（中）」（平成十四年刊、小池謙一、「相撲」No.677（2002）Apr; 160-163）

図表説明

- 図一 相撲今人金剛傳（嘉永五年）から、三ツノ海茂八
- 表一 阿州名東郡徳嶋之産大坂頭取竹縄江戸ハ玉垣
- 表二 三ツノ海茂八の番付履歴
- 表三 三ツノ海茂八の江戸勝負星取一覧および後の幕内力士との対戦成績

論文掲載書誌情報

相撲趣味 一八六号（令和元年十月）一〜六頁

同 三ツ海茂八

阿州名東郡徳嶋之産  
大坂頭取竹繩江戸ハ玉垣  
の門人なり初メ三ツヶ濱  
二段目へ下る



図一：相撲今人金剛傳(嘉永五年刊)から三ツノ海茂八。  
「阿州名東郡徳嶋之産 大坂頭取竹繩江戸ハ玉垣の門人なり  
初メ三ツヶ濱 二段目へ下る」

和暦	西暦	相撲興行地	番付地位	頭書	四股名
天保12年5月	1841	阿波・大岡別宮浦	西三段目25枚目	アハ	三ツケはま 茂八
7月		大坂・難波新地	西四段目120枚目	大坂	三ツケはま 茂八
天保13年7月	1842	大坂・難波新地	東三段目93枚目	大坂	三ツノウミ 茂八
天保14年5月	1843	大坂・難波新地	西三段目47枚目	大坂	三ツノウミ 茂八
閏9月		阿波・佐古清水寺	西三段目13枚目	アハ	三ツノウミ 茂八
天保15年6月	1844	大坂・難波新地	東二段目80枚目	アハ	三ツノ海 茂八
弘化2年7月	1845	大坂・天満砂原屋敷	西二段目37枚目	アハ	三ツノ海 茂八
弘化3年2月	1846	阿波・佐古清水寺	西前頭5枚目	阿波	三ツノ海 茂八
閏5月		大坂・日本橋御蔵前	西二段目13枚目	アハ	三ツノ海 茂八
弘化4年5月	1847	大坂・天満砂原屋敷	東中相撲6枚目	アハ	三ツノ海 茂八
7月		京都・四条道場	西二段目5枚目	アハ	三ツノ海 茂八
嘉永元年4月	1848	奈良・南城戸町(中相撲)	西大関	アハ	三ツノ海 茂八
7月		大坂・天満砂原屋敷	西二段目4枚目	大坂	三ツノ海 茂八
7月		京都・誓願寺	西二段目3枚目	アハ	三ツノ海 茂八
嘉永2年5月	1849	大坂・天満砂原屋敷	西中相撲4枚目	大坂	三ツノ海 茂八
嘉永3年7月	1850	大坂・天満砂原屋敷	東前頭3枚目	大坂	三ツノ海 茂八
嘉永4年2月	1851	江戸・本所回向院	東二段目33枚目	江戸	三ツノ海 茂八
7月		大坂・天満砂原屋敷	東前頭14枚目	大坂	三ツノ海 茂八
11月		江戸・本所回向院	東二段目33枚目	江戸	三ツノ海 茂八
嘉永5年2月	1852	江戸・本所回向院	東二段目34枚目	江戸	三ツノ海 茂八
5月		大坂・天満砂原屋敷	西前頭19枚目	大坂	三ツノ海 茂八
6月		京都・寺町錦天神	西前頭20枚目	江戸	三ツノ海 茂八
11月		江戸・本所回向院	東二段目28枚目	江戸	三ツノ海 茂八
嘉永6年11月	1853	江戸・本所回向院	東二段目20枚目	江戸	三ツノ海 茂八
嘉永7年2月	1854	江戸・本所回向院	東二段目15枚目	江戸	三ツノ海 茂八
5月		大坂・北堀江	東前頭4枚目	大坂	三ツノ海 濱五郎
7月		江戸・巡業(写本)	東小結		三ツノ海 茂八
安政2年2月	1855	江戸・巡業(越谷・大澤)	東二段目筆頭		三ツノ海 茂八

表一：三ツノ海茂八の番付履歴

江戸番付	○	●	初日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日
嘉永3年11月 番付外	1	1	や	や	や	や	や	や	● 花月野	や	○ 黒雲	や
嘉永4年2月 東幕下33	4	0	○ 藤ノ越	や	○ 常陸山	○ 荒飛	○ 稻荷山	/	/	/	/	/
嘉永4年11月 東幕下33	4	1	● 八十島	や	や	や	○ 帆ノ山	や	○ 殿リ	や	○ 角力	○ 一文字
嘉永5年2月 東幕下34	5	3	○ 角力	○ 八十島	● 殿リ	● 一文字	● 八形山	○ 岩山	や	や	○ 荒海	○ 黒緘
嘉永5年11月 東幕下28	0	0	や	や	や	や	や	や	や	や	や	や
嘉永6年2月 番付外	7	1	や	○ 三門山	や	○ 藤ノ越	○ 霧ヶ嶽	○ 三ツ鱗	○ 橘	○ 八十島	○ 立田野	● 殿リ
嘉永6年11月 東幕下20	5	2	や	● 四方山	○ 一文字	や	○ 狭布里	や	○ 島ノ浦	○ 玉頭山	○ 八形山	● 殿リ
嘉永7年2月 東幕下15	7	2	○ 雲井川	○ 八十島	○ 殿リ	○ 的石	や	○ 緑松	○ 島ノ浦	○ 朝日野	● 荒鹿	● 龍ヶ峰
合計	33	10										

2	0	藤ノ越 三五郎 → 鹿島灘 鰐右衛門	前頭6
1	0	帆ノ山 乙平 → 飛龍 喜三太	前頭4
2	3	殿リ 峰五郎 → 不知火 光右衛門	横綱
1	0	黒緘 卷之助 → 陣幕 久五郎	横綱
1	0	立田野 吉蔵 → 湊川 四郎兵衛	前頭5
2	0	島ノ浦 新蔵 → 桑ノ弓 鬼太郎	前頭5
0	1	荒鹿 幸助 → 真鶴 政吉	前頭3

表二：三ツノ海茂八の江戸勝負星取一覽  
および後の幕内力士との対戦成績



相撲趣味 第186号 (非売品)

令和元年(二〇一九年) 10月20日発行

発行所 相撲趣味の会

東京都墨田区東向島三―三七―七―五〇八

野中方 (〒131・0032)

☎〇三―三六一〇―一八一六

郵便振替 (〇〇―一七〇―三―五五六七六九)

編集兼 小池謙一

発行人 東京都三鷹市牟礼二―一四―一四―六〇一

(〒181・0002)

☎〇四二二―四四―五六―二

製作 (株) 医聖社

東京都千代田区西神田二―七―四 島崎ビル

(〒101・0065)

☎〇三―三二六四―八六三九